授業だより　No. 7

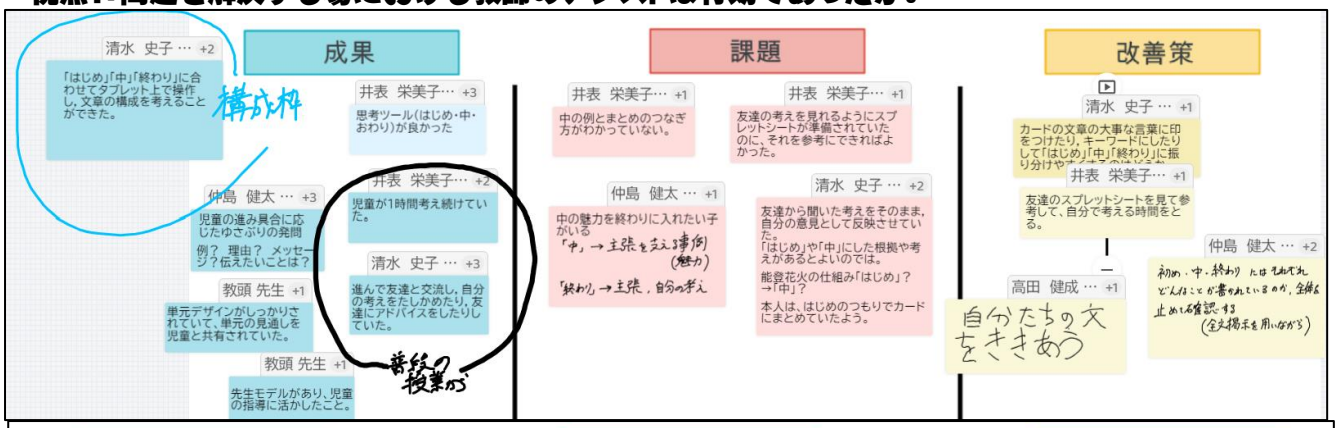
押水第一小学校
令和６年　１０月　２４日

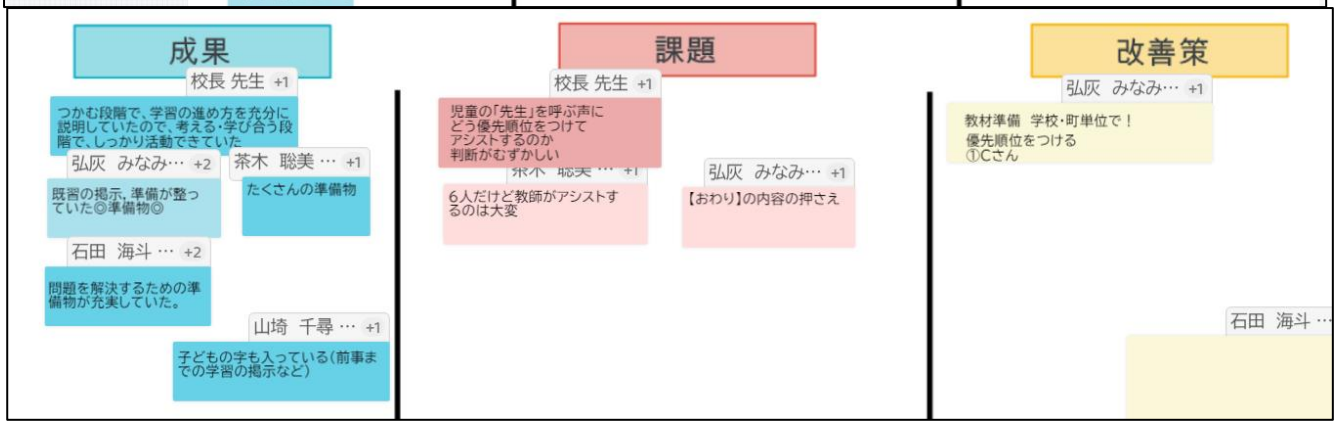
４年研究授業　国語「未来につなぐ工芸品/工芸品のみりょくを伝えよう」
（授業者　川畑）

１０月２３日（水）に４年国語「未来につなぐ工芸品/工芸品のみりょくを伝えよう」の研究授業を行いました。授業後には，授業整理会，金沢大学の折川教授からの指導助言がありました。

【授業整理会～各グループの話合いより～】

視点1：問題を解決する場における教師のアシストは有効であったか。





【指導助言～折川教授より～】

支援の優先順位をつけること

・前時までの見取りをしっかりと行うことが大切である。見取りを生かして，どの児童がどこでつまずいているのか，だれとだれが交流すると深まるのかを事前に考えておく。児童によっては，教師からの支援がほしいと声をかける場合もあるが，教師はどの児童が本当に支援を必要としているのかを見極めて支援を行うべきである。そのために，児童には自力でするように声をかけたり，全員の進捗状況の情報をクラス内で常に共有しておいたりする必要がある。

交流の方法について

・児童が交流をする際には，互いに WIN-WIN の関係になることが大切である。交流をする中で，一方の児童が時間のロスをしてしまったということがないように，友達に付き合うことで何か気づきがあるような交流にすることが大切である。そのためにも交流の目的をはっきりさせたり，一方だけが教えてもらうのではなく互いにとって有効になるような交流にしようというような意識をもたせたりすることが必要である。

国語の授業について（本時も含む）

・個別最適，協働的な学びを進めていく中で，やはり一番大切なのは，指導事項を実現すること，資質能力を育むことである。今回の授業では，「伝えたいことは何か」ということを常に意識させながら進めていくことが大切であった。文章構成を考えさせる場面では，児童は伝えたいことは何かを意識しながら初めに，文章の流れを一文で書くなどして，伝えたいことをはっきりさせてから，どのような工夫を使って，どのように記述していけばよいかを考えるという展開にすればよかった。個別最適，協働的な学び，ICT の活用が目的になるのではなく，指導事項の実現，資質能力の育成を目的として単元をデザインしていくことが大切であることが改めて分かった。